

## B-4 「経済活動と社会」

### (1) 科目の紹介

基本情報	平成 26 年度・教養教育・後期			曜日・校時	火 1 限	
モジュール名	現代経済と企業活動 I			科目名	経済活動と社会	
教員名（所属）	藤田 渉（経済学部）			教室	A-23	
選択者数	66 名	2 年生の所属学部	多文化社会学部 （ 35 名）	教育学部 （ 12 名）	薬学部 （ 9 名）	水産学部 （ 8 名）
授業のねらい：現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的する。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。						
アクティブラーニングに向けて工夫した点：						
講義終了時に「講義の概要と感想や印象に残った事項」について小レポートを毎回提出。						
小レポートの記述内容をもとに講義メモを LACS にアップし、限定的ながら双方向性を持たす。						
資料の提示、課題の提出などは LACS を多用する。						

### (2) 学修の評価

到達目標	①家計・企業の行動原理および市場のしくみを説明できる：科目「経済活動と社会」 ②教養教育の全体目標を理解し、各科目的履修を通して関連目標の達成をめざす（全学モジュール共通目標） ③以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける（全学モジュール共通目標）
成績評価の方法	試験またはレポート等、講義中の課題、積極的な授業参加の程度

### (3) 授業の進行

概要：現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察させる。		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
1	イントロダクション・小学校～高校で学んだ「経済活動と社会」にかかわる事項を思い出す	講義

2	ひとびとの経済活動と相互の関わり・・・生の記憶 と認識の再構成	講義
3	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (1)	講義
4	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (2)	講義
5	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (3)	講義
6	「生産」を深く考える	講義
7	「生産」を深く考えるⅡ	講義
8	「消費」を深く考える	講義
9	「消費」を深く考えるⅡ	講義
10	「取引」を深く考える	講義
11	「取引」を深く考えるⅡ	講義
12	「取引」を深く考えるⅢ	講義
13	「産業」について知るところを・・・	講義
14	ビジネス・エコノミクスへの接近	講義
15	自分の描くキャリアと経済活動	講義

#### (4) 授業の成果

全体の総括	1 時限目のため、どうしても遅刻者に進行を妨げられやすかった。全員参加を目指すため、進行を巻き戻す必要があった。 理解度を小レポートで確認するが、時間的な問題があった。
今後の改善点	あまりないと考える。

#### (5) アクティブラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	一クラス当たりの受講者数をもっと少なくすること。センター入試の得点などから、同様の学力水準の学生を集める。
参考になる資料	特になし

#### (別添資料)

提出された小レポートの例を示す。

学生番号	学生氏名	1・2・3・4・5・6・7
------	------	---------------

## 【講義のまとめ・課題】

今日は手持つこれまでこの授業で何を学んできたために復習した。まず、経済の基本である経済循環とはどのようなものであるかを学び、統合して市場の外部と内部・取引について学んだ。最後には組織や貨幣について macro-micro などと学んだ。日本の場合、且つ複数から貨幣を用いて取引が起きたわけだ。物乞いでではなく、わざわざお金乞いも他国より早くから起きた。これは 600 年以上前からお金さえあれば生きていけるという世界を日本から始めたのである。昔の日本は銅がたくさん採れてて輸出して大事実もある。ここで「市場の外部」について、これは市場を経由せず、費用を負担している、言い換えれば市場のない世界のことである。つまりしては環境問題がある。この不完全市场竞争（= 市場の外部）を内部化することで「デザイン」しているところである。市場と組織はつながっており、組織内にはゲームと呼ばれる経済学がある。日本人は文字から就職していくためのエントリートー書くのが下手であるが、これは合理性の問題ではない。不完全市场竞争の外で「サービスやマッハ」をしてきたのである。市場に出でなければいけないのである。供給者と消費者の互いの関係において、供給者が消費者に情報を提供を行いそれを受け取った時に供給者は消費者に提供し、それを受け取った時に消費者が支払いを行ふ、そして清算となる。日本では、物を交換から始まり商品を貨幣にし、貴金属を貨幣にし、最終的に今の世界は信用貨幣となりたのが絶対的、貨幣としている。しかし、物々交換や商品交換が行われて取引されていったところは、私たちにとって非常に似ていてはならない。実際にその不完全市场竞争では多いからである。二千数百年前にいたる。石更玉による取引が起きたときにいたため、これは既に贵金属取引である。十九世紀以降、物々交換をしていくこという事実は見つかっていない。また、商品交換を買うために商品「貿易」を買ったと石更玉してしまったので、商品交換もせりり使われていたのは疑問である。伝言をして物を交換ではお互いの一致をして交換するのは不可能である。贈答（ホヤッヂ）ではない。しかし、一重の手をして女性を渡すのは好むしていたとも言える。また、個人間で用いたものだ。これが現実。グループで信用によると意識したこと・感想】消費が行われられて、言収支も可育をじあたのたゞう。

今日も活潑な会話をした。この授業も残り 2 回となった。授業の最後にこれまでの復習を行ったが、経済の基本となる経済循環から、应用まで、さまざまな一般知識や歴史など、幅広くわざわざ分野の知識を身に付けることができて「予授業」とあるほど、新めて実感した。今日の予授業の中で、日本人の若者が「グループでかたまり一緒にいよう」としたり、ラインで会話をしたりするところが、自分と違う自己防衛システムであると、先生がおしゃっていた。石更玉にしても一人にはその力が強いから、このように行動をしてみると多かった。また、それはまだ「将来につけておきたい」と思っており、早めに良い年齢は自分の未来像を決め、この長崎大学に来て興味があること、卒業後は志願するよといふことをめた。加えて、日本人は自分のことを上手く表して就職試験に望んで、くのか、才媛だと聞いた。また一年であると「早く就職」から、まずは自分についてなぜ人と理解をし、アクトシットができる人になりたい。